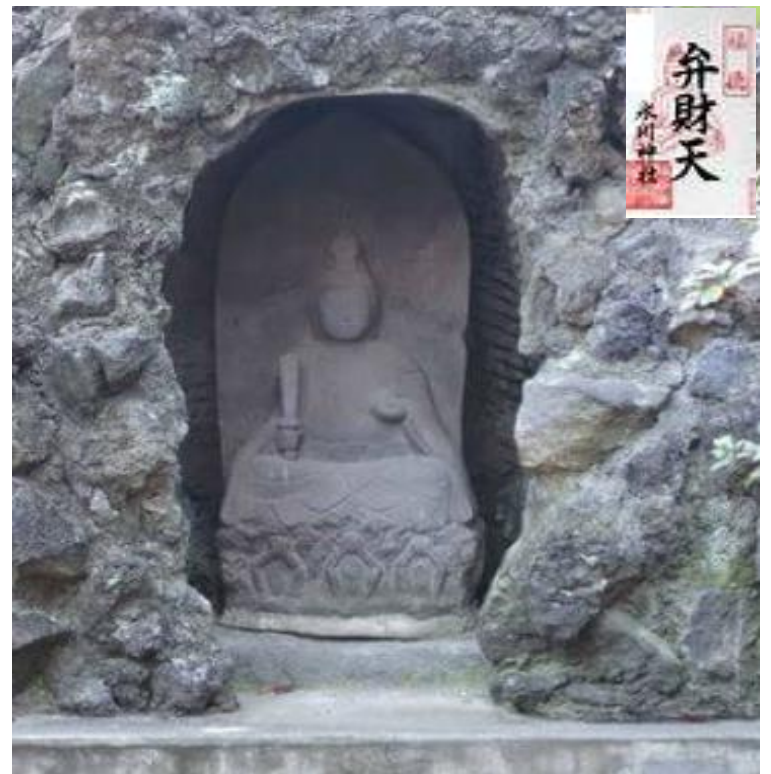




①仲町氷川神社(弁財天)

千住仲町は、江戸時代に石出掃部亮という人が千住の南に広がる河川敷の湿地帯を開墾して町にしたのが始まりとされています。
そのときに元和二年(1616)、牛田にあった氷川神社を石出家の鎮守として勧進されたのが仲町氷川神社だそうです。境内にあった弁天池の中島に祀られていた弁財天が千寿七福神の一つになっています



②河原町稲荷神社(福祿寿)

河原町稲荷神社は、河原町の鎮守だけでなく河原町ある千住青物市場(やっちゃ場)の守護神でもありました。千住青物市場とは天正四年(1576)に創設された市場で、神田・駒込とともに江戸三大市場のひとつに数えられていました。境内には立派な福祿寿の石像が立っていました。



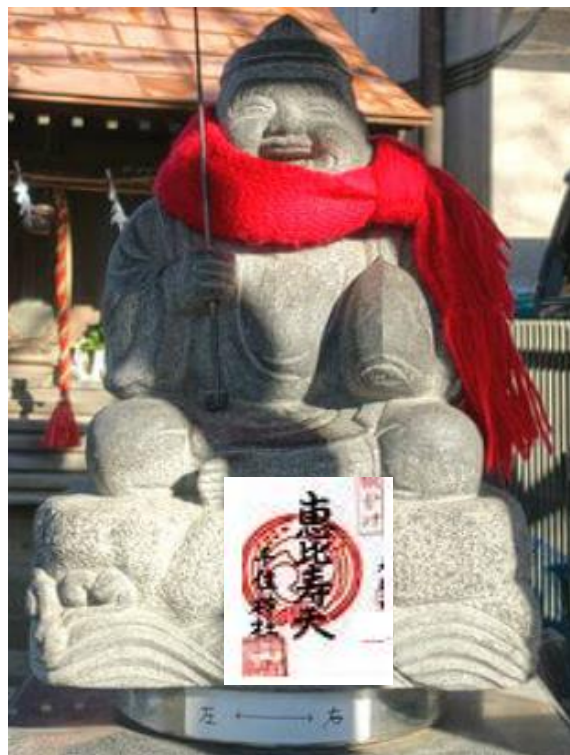
③八幡神社(毘沙門天)

八幡神社は、源義家が永承五年(1050)に奥州征伐に赴く途中で千住に滞陣し、渡裸川の渡し場に白幡を立て戦勝祈願をしました。そのため白幡八幡神社とも呼ばれています。
強そくて勇ましい姿の毘沙門天の石像が境内に立っていました



④千住神社(恵比寿天)

千住神社は、旧千住町の総鎮守で歴史も古く、平安時代の延長四年(926)に千崎稻荷として祀られたのが始まりその後、弘安二年(1279)には氷川神社を勧請して両社合祀となり、「ニッ森」と通称され、明治になってからはだそうです。稲荷・氷川の両社を合併し、「西森神社」と改称しました。
千住神社と呼ばれるようになったのは大正四年(1915)からです
奉納された灯籠の並びの向こうに恵比寿天がいらっしゃいました。



⑤元宿神社(寿老神)

千住元町周辺は、かつて「元宿」と呼ばれ、千住で最も早くに開拓され集落があった場所だそうです。
江戸時代以前からあった八幡神社も四丁目氷川神社に合祀されていたのですが、昭和五年(1930)地元の稲荷神社と合わせて分離独立し今日の元宿神社となりました



⑥大川町氷川神社(布袋尊)

大川町氷川神社は、千住五丁目の鎮守で、創建は鎌倉時代の永仁年間（1293年）という歴史ある神社です。川、稲荷、浅間の三社からなり安養院がその別当寺だったといひます。立派な布袋尊の石像が赤いのぼりに囲まれて境内に建っていました



⑦千住本氷川神社(大黒天)

千住本氷川神社は、徳治二年(1307)に下総国千葉氏が牛田に千葉山西光院とともに、現在の千住曙町に氷川社として創建しました。千葉氏の一族であった権の兵衛(小林氏)等、地元の有志たちが土地を奉納することによって分社を建立し、現在の姿になったそうです。

